

子どもの広場

【読書祭り】

今年度も「読書祭り」を行い、たくさん子どもたちが参加し、本の世界を様々な形で楽しみました。この行事は児童の読書への関心・意欲を高め、進んで読書に親しめるよう図書委員会を中心に、工夫を凝らした様々なイベントを毎年行っています。本の表紙を使ったジグソーパズル大会やパペット劇場、パネルシアターやみんなで台詞を考えた劇も行いました。

また、「おはようおはなしの会」の方には、楽しい影絵劇をしていただき、みんなで楽しい時間を過ごしました。

この催しをきっかけとして、読書への関心をさらに高めていけたらと思います。

【租税教室～6年生】



鳥取税務署の方にゲストティーチャーとしてお越しいただき、税の学習をしました。税金について子どもたちが普段耳にするのは、消費税くらいです。税金は子ども

たちにとってはまだまだなじみがなく、税金で銀行やコンビニエンスストアがつくられていると思う込んでいた子どももいました。

今回の租税教室で、税にはいろいろな種類があることや、税の使い道について、クイズに答えたり教材ビデオを見たりしながら理解を深めました。

毎年この教室で恒例になっている「1億円（サンプル）を持ってみよう」のコーナーでは、子どもたちは大喜びでした。ちなみにこの1億円とは、約20人の6年間の小学校生活のために使われた税金だそうです。1億円の重みとともに、税金によって私たちの学校生活や日常のくらしが支えられていることを強く感じられる学習になりました。

【社会見学～5年生】



5年生はNHK放送体験クラブに参加し、番組作りを体験しました。グループごとに役割を決め、あらかじめ練習をして臨みました。当日は役割ごとに細かくアドバイスしていただき、楽しく番組作りを行うことができました。

一つの番組を作るために、とてもたくさんの人が関わっていることに気づき、協力しながらみんなで一つのものを作っていくということに感動しました。制作した番

組は先日の個別懇談のときに紹介しました。また、NHKのホームページにも一部掲載されています。

【書き初めの会】



附属中学校長の住川先生の指導の下、5年生の書き初めの会を行いました。住川先生は書道の大家でもあります。

まず、字の大きさと配置を整えるにはどうすればよいか考えました。子どもたちはすぐに紙を折って、思い思いに「新春の光」を書き始めました。その後、子どもたちが書いた字を見ながら、先生からアドバイスがありました。私たちは通常、自分の名前を書くことを想定して、左側に余白を多めに残そうとしますが、実はそうではなくて、「春」の右払いや「光」の六画目の曲がりや折ればねを考えて、右側の余白を多めに取った方がよいという指導がありました。全体のバランスを考えることの大切さも学びました。3枚練習した後、清書をしました。

専門家から学ぶことは新たな発見や学びがあります。本校ならではの学びの場となりました。



幸せの正体

林 多恵子

年の瀬の押し迫ったある朝のことでした。学校裏の駐車場からの道は、つるつるに凍っていました。

裏門を通るとき、

「ここ滑りますよ。気をつけてください。」

と、二人の高学年の女の子が声をかけてくれました。言われたとおり、気をつけてゆっくり歩いて玄関に入り、階段を上がっていると、

「林先生、すごい荷物ですね。教室まで持ちましょうか？」

と、背中から声をかけてくれる隣のクラスの男の子たち・・・。

ニュースでは、今年一番の寒い一日と言っていました。わたしの心は、ほかほかと温かくなりました。

国語学の教授である野口芳宏氏が、「幸せの正体は、人から大事にされること、人を大事にすること。」

と言っておられました。この朝、私はしみじみと幸せを感じました。

教育の究極の目標は、一人一人の子どもたちの人生を幸せに導くことだと考えています。そのことを深く心に刻んだ朝でした。



